

# 「平成27年度 新任保育士研修会」報告書

【期 日】平成27年5月22日(金)  
【会 場】アバンセホール  
【主 催】佐賀県保育会  
【参加者数】109名



## 【内 容】

研修1 10:00～10:20

「基調報告」：田中 豊博 氏（佐賀県保育会会長）

研修2 10:30～12:00

「『みる』トレーニングと気づきの高め方」

講師：坂田 和子 氏(福岡女学院大学 人間関係学部 こども発達学科 准教授)

研修3 13:00～16:00

ワークショップ

「子ども理解から磨かれる子ども観・保育観」

講師：橋口 繁美 氏

(佐賀市教育委員会 子ども教育部 学校教育課指導主事 兼保育幼稚園課主査)

## 研修1 「基調報告」

講師：田中 豊博 氏(佐賀県保育会会長)

- 子ども子育て新制度について
  - 新幼保連携型認定こども園と保育所との違い
  - 幼稚園教諭・保育士資格
  - 処遇改善
  - 保育士不足
- 新任保育士としての心構え



## 研修2 「『みる』のトレーニングと気づきの高め方」

講師：坂田 和子 氏（福岡女学院大学 人間関係学部 こども発達学科 准教授）

### 《なぜ「みる」が大切なの？》（子どもの理解について）

○子どもはなぜ「みてー」「みててー」と言うのか？何を「みて」といつているのか？

→こどもが“いま、ここにいる”事を受け止めてほしい。

○自己存在の確認 ※重要な他者からの生きている事の裏付けと保障

・子どもは子ども達だけで集団が出来ているわけではない。子どもなりにリスク（受け入れるスキル・断るスキルなど）を背負って集団に入っている。

→それぞれの子どもの達の発達段階や性格をしっかりとみて、今、どんな心情なのか？どうしてほしいのか？という事を考慮して対応するようにしましょう。（保育士は学び続ける存在・発達のプロです！）

○保育所（園）は家庭と同じ機能と異なる機能がある。子ども達は遊びの中でたくさんのお話を試し、先生や友だちと共に生活して行くことを繰り返し手行くことで

「自分」→「他者」→「身のまわり」→「自分に関わる世界」に気づく。

○保育所（園）では一人ひとりの子どもが丁寧に扱われる、受け止められ、個として認められる。保育では個が集団で育つ。

○遊び（学び・生活体験）は“楽しい”“わかる”が増える事。→“わかる”が増えると楽しい！！

→自分に対して信頼を置くことができる。

※情緒が安定していないと遊びや勉強どころではない！情緒の安定と学びの保障を！

### 《保育を实践する上で押さえておきたいこと》

○乳幼児は“にげる”事を知らない。→何でもできるし、何でもこなす。

だからこそ寄り添い、子ども達の気持ちをくみ取り、代弁し、より良い自己表現、自己抑制、自己コントロール、自己実現へと導く存在が重要！

より良い事とは……という事をずっと考えながら保育をしていかなければならない。

○同僚間で保育士としての“わたし”がどうみられているのか、同僚の保育士に保育を見てもらう事で、自分の癖や、偏りに気付くことができる。又、意見を出し合い、お互いの本質を理解でき、組織としての風通しがよくなってくる。

○「良い」「悪い」の二者択一ではなく、白黒はっきり答えは出ない…。常にグレー。

だけれども解決するのではなく、より、良くなる為にはどうあるべきか、どうするべきかが大事！！



### 研修3 「子どもの想いと願いを見取る・聴き取る保育所職員に」

～子ども理解の手立てとして子ども観・教育感を見直そう～

講師：橋口 繁美 氏（佐賀市教育委員会学校教育課指導主事 兼保育幼稚園主査）



保育者一人ひとりに与えられた課題として

- ① 子どもの姿から思いを汲み取る事
- ② 子どもの心に寄り添うこと
- ③ 子ども理解

研修方法としてワークショップ方式を取り入れる。

それぞれの事案に基づき、自分だったらどうするのか？それぞれの考えを出し合う事で自分の他にも別の考え方や関わり方がある事に気づき、日々の保育を振り返りながら自分の人権感覚を磨いていく。簡単に「ケース バイ ケース」にしない！

#### （事案）

- お昼寝の時におしゃべりをする子の布団をみんなの布団から一人離す
    - ・この子の気持ちはどうなんだろう？ ・みんなはこの子をどう思う？
    - ・他に対応の仕方が必ずあるはず。
- （保育業界の）見えないカリキュラム！！非文カリキュラム（言葉・行動・振る舞い）
- クラスで同名の子どもの一人をニックネームで呼ぶ。
    - ・本人が嫌がっている場合もあるのでは？ ・名前が同じだと区別するものが必要。
    - ・同姓同名の場合もあり、区別の仕方に祖母のアルファベットをしようしたりする方法も…
    - ・一生のニックネームになる可能性もあるので慎重に考える必要がある。

